

丸山眞男研究プロジェクト中間シンポジウム

現代世界の中で丸山眞男をどう読むか

東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センターは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として、二〇一二年より五年間の研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養——丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用——」を進めてきた。二〇一四年はこのプロジェクトの中間年であり、丸山眞男生誕一〇〇年にもあたるため、本センターは、シンポジウム「現代世界の中で丸山眞男をどう読むか」を六月二七日に開催した。

シンポジウムは、午前の荻部直氏（東京大学教授）によるご講演と、午後のパネルディスカッションという二部構成で行われた。パネルディスカッションでは、油井大三郎氏（東京女子大学特任教授）・區建英氏（新潟国際情報大学教授）・趙星銀氏（東京大学大学院）の報告の後、聶莉莉氏（東京女子大学教授）からそれぞれの報告についてのコメントがあった。その後各報告者より、聶氏のコメントおよびフロアからの質問に対する応答がなされた。

本シンポジウムの内容については、パネルディスカッションの司会を務めていただいた丸山文庫顧問・平石直昭氏による概要が、東京女子大学『学報』二〇一四年第二号（同年九月発行）に掲載された。本

『報告』では、荻部氏・油井氏・區氏・趙氏・聶氏の校正を経たうえで、シンポジウムの記録全文を掲載させていただいた。

ご参加くださった皆様に深く感謝申し上げます。
東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センター長 大久保喬樹